

クボタ通信

第136期中間

2025.1.1-2025.6.30

特集

地球と人にやさしい“食と農業”の未来を、世界とともに考える
—2025年日本国際博覧会で、クボタが込めた想い—地震に負けない水道管を未来へ
大阪市民の命を守るミッション

株主の皆様へ

株主の皆様には格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

クボタ通信(第136期中間)をお届けするにあたり、ご挨拶を申し上げます。

2025年1月1日から6月30日の業績につきましては、建設機械、国内農機や水・環境事業が好調に推移しました。一方で北米市場では流通在庫の増加を防ぐために出荷を抑えた結果、前年同期と比較して売上・営業利益ともに減少しました。

2025年12月期の業績予想につきましては、北米トラクタ市場の低迷が影響し、連結業績予想を変更しました。今後は成長の柱である建設機械事業のさらなる拡大を図るとともに、トラクタ事業の競争力強化を通じて、収益力の回復に努めてまいります。

なお、第136期中間配当につきましては、減益ではございますが、フリーキャッシュフローの改善が見込まれることから、当初の予想どおり、1株当たり25円とさせていただきます。

株主の皆様におかれましては、今後も変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



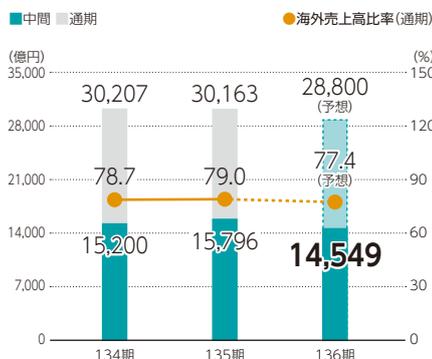
株式会社クボタ 代表取締役社長

北尾 裕一

第136期(2025年12月期)中間連結業績

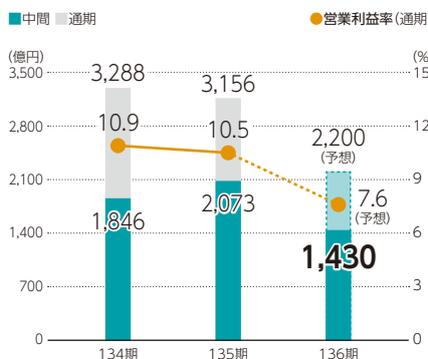
売上高

14,549億円 前年同期比 -7.9%



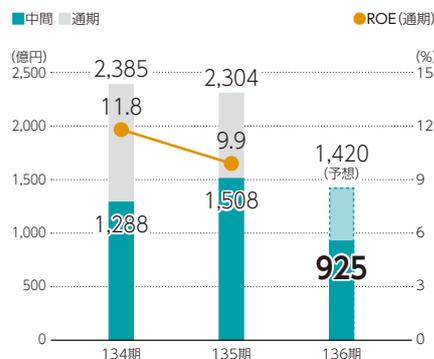
営業利益

1,430億円 前年同期比 -31.0%



親会社の所有者に帰属する中間利益

925億円 前年同期比 -38.7%



第136期(2025年12月期)通期連結業績予想

売上高

28,800億円

営業利益

2,200億円

親会社の所有者に
帰属する当期利益

1,420億円

1株当たり
配当金

第136期(中間)

第136期(期末予想)

1株当たり 25円
支払開始日: 2025年9月1日

1株当たり 25円

最新の決算情報についてはこちら

<https://www.kubota.co.jp/ir/financial/presentation/index.html>



OSAKA, KANSAI, JAPAN
EXPO
2025

Kubota

PLATINUM PARTNER

地球と人にやさしい“食と農業” の未来を、世界とともに考える

—2025年日本国際博覧会で、クボタが込めた想い—

2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)は「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、158の国・地域と7つの国際機関が参加する、多様な文化・価値観が集う特別なイベントです。クボタがプラチナパートナーとして協賛する「未来の都市」パビリオンも、博覧会協会と協賛12者が共同でつくり上げる、万博の歴史の中でも初めての取り組みです。「幸せの都市へ」というテーマのもと、Society5.0が体験できるこのパビリオンは、連日およそ1万人もの来場者が訪れています。まさに「未来社会の実験場」を体現している場所といえるでしょう。クボタは“食と農業”の領域を担当し、その未来の姿を人々に伝えています。本特集では、企画・運営を担当するKESG推進部 関根正海さんと、同部から博覧会協会に出向中の、未来の都市 副館長 西村晃一さんにお話を伺いました。



大阪・関西万博
公式キャラクター
ミャクミャク
©Expo 2025

》 Interview

地球と人にやさしい農業のカタチ ～プラネタリーコンシャス[※]な農業～

今、日本だけでなく世界レベルで、食と農業について様々な課題が顕在化しています。私たちが暮らす地球を守りながら、これからも世界中の人々が豊かに食を楽しみ、暮らしていく未来。クボタは、そんな未来を実現するために、「プラネタリーコンシャスな食と農業」というビジョンを掲げました。KESG推進部や研究開発本部を中心に議論を重ね、企画と展示を構想、その結果、会場ではコンセプトモデル「汎用プラットフォームロボット」をはじめ、来場者に食と農業の未来について考えてもらうための様々な展示をしています。長年農家に寄り添ってきたクボタとして、来場者の一人ひとりが、これからの未来を考えるきっかけを提供する展示体験となっています。

※人々の豊かな社会と地球環境の持続的可能性が両立された状態



(左) 2025年日本国際博覧会協会
未来の都市 副館長 西村 晃一さん

(右) KESG推進部推進第二課
関根 正海さん

農業を、来場者の「自分ごと」として捉えてもらうために

「多くの人々にとって毎日の「食」は当たり前であり、それを支える農業は少し遠い存在になっています。来場者が、農業の大切さに気づき、自分ごととして捉えてもらうにはどうしたらよいか。体験を通じて、食と農業のつながりに気づくことのできる空間にしたいと考えました」と語るのは、企画当初から携わる関根さん。これまで携わったCMをはじめとしたブランドコミュニケーション、北海道に設立した農業学習施設「KUBOTA AGRI FRONT」など、農業やテクノロジーの価値をわかりやすく伝えるための経験が、今回の展示に活かされています。「『農業って思っていた以上に選択肢がある』、『農家じゃなくても農業に関わる方法はあるのですね』といった感想を多くいただいています。国籍や世代を超えた人々が一堂に会し、食と農業に想いを馳せる姿を見るたびに、心から嬉しく感じています」と関根さんは話します。クボタプレイスは、来場者が自らの暮らしと農業の結びつきを考える特別な場となっているといえるでしょう。



農業経営シミュレーションゲーム
[PLANET KEEPERS]

国籍や世代を超えた老若男女が横一列になって食と農業の未来について考える

未来社会の礎となる価値を

万博協賛の価値について、クボタから出向し「未来の都市」パビリオンの副館長を務める西村さんはこう語ります。「万博は、世界の分断を乗り越え、多様な国の人々と新たな関係を築く素晴らしい機会です。クボタのビジョンに共感していただくだけでなく、持続可能な農業の構築に向けての先進的な取り組みは、多くの人々に希望をもたらしています。1970年の大阪万博で展示された「夢のトラクタ」は、現在のトラクタでその多くが実現されているように、今回の万博を通じてイノベーションを次の世代へと繋げていくことが、私たちの使命だと感じています。クボタの情熱と想いを感じ取っていただけるクボタプレイスにお越しいただき、一緒に明るい未来を創造していきましょう」



スペインの農業・漁業・食料省の大臣が
クボタプレイスを訪問した

地震に負けない水道管を未来へ 大阪市民の命を守るミッション

【事業概要】

対象エリア：大阪市内全域
対象路線：約100路線(総延長約38km)
事業期間：2024年度～2031年度(8年間)
事業費：525.5億円
事業者：ウォーターパートナー大阪管路株式会社
(クボタ含む構成企業7社)

生活に欠かすことのできない水を運ぶ「命綱」である水道管が今、生まれ変わろうとしています。大阪市内の老朽化した水道管を、大規模災害にも耐えうる強靱なネットワークへと再構築する「大阪市水道基幹管路耐震化PFI事業」の工事が本格化しつつあります。本特集では、現場の最前線で奮闘する関係者の声や取り組みをご紹介します。

全国初のPFI方式による大規模管路更新事業

大阪市の水道管は、政令指定都市の中でも管路経年率が最も高い状況にあります。このため、南海トラフ巨大地震が発生すると、市内で広範な断水が想定されており、早急な対策が求められています。大阪市は、その対策として水道管の耐震化を促進する手法として、設計と施工を民間事業者が一体的に担う「PFI[※]方式」を全国で初めて管路工事に導入しました。技術統括室の左さんは「従来の自治体による発注工事と異なり、事業計画そのものも私たちに任されています。施工範囲が市内全域にわたり広く点在している中で、どこから着手すべきか全面的な調査を行いました。すべて自分たちで考えなければなりません。難しい課題ですが、長年水ソリューションに携わってきた当社の腕の見せ所です」と話します。

※Private Finance Initiative の略



耐震管敷設のようす

“掘ってみないとわからない”地下の実態

「古くから敷設されている水道管は、実際に地下を掘削してみなければ状態や構造がわかりません。交通や住民の皆様への影響の大きさを考えると、作業工程を簡単に変更することはできませんので、常に何が出てくるかという不安との闘いです」と工事での苦労を話す建設統括室の川上さん。「地下を掘削すると図面に記載されていない埋設物や、大量の地下水などが出てくることもありました。こうした場面では、都市部の大規模工事や、行政との交渉など、土木のプロである大林組さんの高い経験やノウハウに助けられています」と構成企業同士の連携の大切さを語ります。

近隣住民への配慮と関係構築がカギ

大都市での工事には、また別の課題も立ちまわります。近隣住民への環境配慮と良好な関係構築が工事を円滑に進めるカギとなります。特に大阪市は自転車や車の通行量が多く、周辺住民の安全と利便性をいかに確保するかが課題です。「夜間工事が多くなるため、騒音や振動が最小限となるように努めています。工事に対して懸念を抱かれる近隣住民の方には訪問を重ね、インフラ整備の重要性を丁寧に説明し、良好な関係を築いています」と川上さん。「事業主体が自治体でなく、我々民間企業となるため、住民の方の不满はクボタの評判に直結するので地元企業としての信頼や姿勢がより一層求められる環境となっています」と襟を正します。



近隣住民への現場見学会のようす



水環境ソリューション開発部

(左)技術統括室 近藤 博文さん
(中央)建設統括室 川上 雅樹さん
(右)技術統括室 左 卓さん

社会的注目とクボタの使命

近年、災害や老朽化による水道管の漏水事故の報道が相次ぎ、本事業の社会的注目度が高まっています。「クボタは、本事業を通じて経験や実績、新たなノウハウを高めていき、全国各地で必要となる水道管の老朽化更新、耐震化に貢献していくことが使命であると考えています」と技術統括室の近藤さん。蛇口をひねれば当たり前に出る水を支える、その当たり前を支える「命綱」を次世代に残し、クボタが目指す姿“命を支えるプラットフォーマー”を実現していきます。

» Interview



大阪市水道局から「大阪市水道基幹管路耐震化PFI事業」を受注

<https://www.kubota.co.jp/news/2024/management-20240417.html>

年会費無料!

For Earth, For Life
kubota

クボタのことを、もっと知っていただくために

「クボタ株主クラブ」にぜひご入会※ください!

クボタ株主クラブとは、株式会社クボタの株主様へ情報発信を行う年会費無料の専用サイトです。
入会いただくことで、様々な特典を受けることができます。

クボタ株主クラブ 入会のメリット

毎月のニュースレター配信



クボタの工場、関連施設 見学ツアーなどへのご招待



「クボタベっぴんふぁーむ」 取扱商品の特別販売



クボタスピアーズ 試合観戦チケット等の優待



「クボタ株主クラブ」は、三井住友信託銀行(株)が提供する「株主パスポート」とは異なるサービスです。
「株主パスポート」については、本資料に同封のご案内をご覧ください。

株主番号の確認方法

クボタ株主クラブのご入会には、株主番号が必要です。
本資料に同封の「配当金計算書」からご確認ください。

配当金 計算書				株主番号 000000000
所有株数	1株あたり配当金	配当金額	税額合計	支払金額 円
株	円	円	円	
000-0000				
大阪府大阪市浪速区敷津東1-2-47				
久保田 太郎 様				
株式会社クボタ				

「配当金計算書」の右上に
記載された9桁の数字



ご入会はこちらから

<https://shareholders.kubota.co.jp/>

※ 毎年6月末・12月末時点で、当社株式を1単元(100株)以上
保有されている株主様が対象です。

株式事務手続きのご案内

お手続きをご利用される場合は、お取引のある証券会社、または下記の
株主名簿管理人である三井住友信託銀行(株)までお問合せください。

三井住友信託銀行(株)
お問合せ先

☎ 0120-782-031 (フリーダイヤル) 受付時間 9:00~17:00 (土・日・休日を除く)
【郵便物送付先】〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行(株)証券代行部

安全・確実! 配当金のお受け取りは口座振込をご検討ください。

一度ご指定いただければ、以降は支払開始日に即日振り込まれます。

お受け取り
方法

- 1 お取引のある証券会社の口座
- 2 ご指定の金融機関の口座
(個別銘柄ごとの指定も可)

お問合せ先

- 当社の株式を証券口座に預けている株主様
お取引のある証券会社まで
- 上記以外の株主様
上記の三井住友信託銀行(株)証券代行部まで

⚠ お支払開始日から満3年を経過した配当金は、お受け取りができません。

